

令和2年度計画の点検・評価の結果について（総括）

令和3年5月10日
大学評価委員会
委員長 久枝 良雄

大学評価委員会では、令和2年度計画の実施状況の確認と、今後の中期計画の達成及び内部質保証の実現に向けた取組の推進に資するため、各年度計画の実施主体による自己点検・評価の結果について確認した。

この結果、全般的には順調に進捗しており、全ての年度計画について、十分に実施している、または年度計画を上回って実施していることを確認した。

しかしながら、今後の改善に向けた課題もあるため、下記に指摘事項を記載する。

記

【共通の指摘事項】

(1) 記載内容について

- ・国立大学法人評価委員会へ提出する業務実績報告書は、自己点検・評価における「年度計画の実施状況」をもとに作成されるため、取組の実施状況は十分かつ、適切な分量で記載され、第三者にとっても正確に理解できるような内容となるようご留意いただいているところだが、一部の計画では記載が十分ではなく、第三者に分かりやすい内容とは言えないものがあった。十分かつ適切な分量で記載いただきたい。ただし、冗長とならず、重要な点を押さえつつ第三者に分かりやすい内容とすることを意識していただきたい。

(2) 課題の把握について

- ・年度計画の取組の過程で判明した課題を改善することは自己点検・評価の目的の一つである。課題解決に向けて取り組み、改善が図られたのであれば、「内部質保証」の取組例として逆にアピールすることもできるため、自己点検・評価の過程では、課題を明確に把握し、できる限り記録しておくことが重要である。

(3) 適切な資料の添付について

- ・根拠資料は概ね適切に添付されていたが、一部の年度計画では、本文と資料の対応が不明確なものや、必要な資料が添付されていないものが見られるため、年度計画の実施状況を具体的に示すためにも、必要な根拠資料を適切に添付いただきたい。

(4) 中期計画の達成について

- ・令和3年度は、第3期中期目標期間の最終年度となる。中期計画を達成できるよう、また既に達成できている計画については高評価を得ることができるよう、引き続き鋭意尽力いただきたい。

以上